

〈採集記録〉

豊岡市下鉢山 (4幼虫, エノキより, 17・II・1990)

城崎郡香住町上計 (2幼虫, エノキより, 23・12・1989)

美方郡村岡町村岡銚子ガ谷 (1幼虫, エゾエノキより, 13・V・1988)、村岡町宮神 (2幼虫, エゾエノキより, 9・XII・1989)、美方町秋岡 (4幼虫, エノキより, 23・II・1990)、美方町神場 (4幼虫, エゾエノキより, 23・II・1990)、美方町新屋 (6幼虫, エゾエノキより, 23・II・1990)

〈参考文献〉

- (1) 広畑政巳 (1987) 兵庫県産蝶類分布資料 (4) 一タテハチョウ科シジミチョウ科11種の記録—てんとうむし (10) :14~15

## ヒゲナガサシガメ・ベニモンマキバサシガメ共に氷上郡山南町に産す

高橋 寿郎

○ ヒゲナガサシガメ *Endochus stalianus* Horváth は1926年福井玉夫博士が発表された“内地産食虫椿象図説”の中で(昆虫、2巻2号、P75—76)博士自身標本がないので“Horváth 及松村松年博士の記載によった”として産を本州、九州として記載された。

筆者はこの Horváth の原記載 (Termesz. Füzetek, Vol. III, 1879, P147) 並びに松村博士の記載文を見ていないのでこの福井博士の記載が一番古く知った文献である。

その後加藤正世博士は分類原色日本昆虫図鑑第5輯 (pl. 22, f. 1, 1933) にカラーで図説をされ分布を本州、四国(未記録)、九州、台湾(未記録)として椎、樫の如き植物の葉上に採集出来るが稀であるとされた。

1950年江崎悌三博士は日本昆虫図鑑 (p.252, f. 659) に図説され“本種は本州、四国及び九州の山地に産し潤葉樹上に棲息するも多くない”と記しておられる。それ以外どうも図説がされていない様で原色日本昆虫大図鑑 第3巻 (1965) にも出てこない。割合と全国的に見ても少い種のように思われる。

兵庫県下からは山本義丸氏が1954年(丹波地方、氷上郡、多紀郡) 1958年(氷上郡) にそれぞれ記

録をされているがどちらの記録にも多いのか少ないのかまたデータその他が一切示されていないのでどのような産出状況の種なのかわからなかった。それ以外兵庫県下での本種の記録は全く知らない。それ故県下では珍しい種なのだろうと考えられる（或は山本氏の手許には氷上郡下で多くいると云うデータがあるのかもしれないが）。

1990年7月5日たまたま氷上郡の山南町で採集する機会にめぐまれ道端のクヌギの葉を網ですくって歩いて一頭入って来た。一見して割合大きいし（体長11.5mm 半翅鞘先端まで14mm）生きていた時は美しい黄褐色のサシガメで筆者としては生れて始めて採集したもので珍しいのではないかと喜びかなり丹念に探して見たがこの一頭しか得られなかった。上記山本氏の記録してあるように氷上郡下では広く分布している種なのかもしれないが県下の記録としては氷上郡以外見られずやはり数少いサシガメの1種かとも思われ此処に記録しておく。尚この地ではトビナナフシ *Micadina phlucaenoides* Rehn が割合と見られた。この種もそうざらにいるナナフシでは無いように思う。

○ ベニモンマキバサシガメ *Gorpis cribraticollis* Stål

この種の方も福井玉夫博士が図説しておられる（昆虫, Vol. 2, No. 2:84, f. 28, 1927）。産地は本州とだけになっている。

江崎悌三博士は日本昆虫図鑑で図説され（P.256, f. 669, 1950）“本州の山地に産するが至って珍らしい種で又満洲、セイロンからも知られていると”と記しておられる。

宮本正一博士は原色で図説され（原色日本昆虫大図鑑第3巻, pl. 48, f. 14, p.96, 1965）“山地の闊葉樹の葉裏で発見されるが少ない。分布：本州・四国・九州・満洲・セイロン・ジャバ”と解説しておられる。淡黄緑色の地に紅色紋を有し肢の腿節の末端部は血紅色でなかなかきれいな種である。この種は兵庫県下からは従来記録が無かったと思われる。即ち兵庫県新記録種である。9月6日氷上郡山南町でやはりクヌギの葉をすくって一頭採集することが出来た。両種共に仲々探して見つかる種ではなく偶然の出会いの様な気がするが詳しい生態その他が全くわからないサシガメである。